

朱鷺メッセ連絡デッキ落下事故第2回調査委員会 委員長記者会見要旨

平成15年9月6日

18:30 ~ 19:30

1 委員長会見要旨

本日は全体スケジュールの確認を行った。

また、これまでに県の行った設計・施工面での調査の内容説明があり、それに対して質疑応答を行った。次回は設計施工業者に話を聞く予定である。

さらに、崩壊メカニズムについて議論をした。核心には至っていないが、われわれの仮定を立証するために構造解析を行い、更に検討を重ねて行きたい。

次回以降、あと3回くらい検討を重ねて、おおよそのところにはたどり着きたい。

2 質疑

Q 今回の議論で新たにわかった点は。

A あの構造は比較的新しい構造形式である。力の入り方も当初思っていたことと違うことがわかった。構造的に施工が難しい。高度な施工監理が必要である。

Q 斜材ロッドについてはどうか。

A (部分的に)引っぱりながら施工するか、全体を組み上げてから引っ張るかで考え方が違ってくる。

Q 設計で想定したとおりに施工がなされていない感じは受けなかったか。

A 設計・施工業者に良く聞いて、調査しないとわからない。施工手順が変わると、思ってもいない力が発生する構造だと思った。

Q 設計時点の考え方では先ほどの引っぱりながら施工する方法と、全体を組み上げてから引っ張る方法のどちらを想定していたか。

A 引っぱりながら作るほうを想定していたように思う。

Q 実際、引っぱりながら作っていたか。

A そういう風にしていたと思うが、実際どこまで想定どおりやれたかわからない。

Q それが想定と違うと実際の強度に影響を与えるのか。

A 与えると思っている。今後、構造解析で押さえない。

Q ジャッキダウンの不具合の件について資料はあったか。

A 一回行って不具合があり再度行ったと記録があり、具体的に施工者に聞きたい。

また、委員会で構造解析を行い、そういう施工手順で行うとどういうことが起こるか再現したい。

- Q それは崩壊の大きな原因の一つか。
- A いろいろ解析しないとわからない。原因と結果がまだ判明していない。
- Q 施工監理は綿密に指示されていたか。
- A 聞いてみないとわからない。
- Q 朱鷺メッセ側のデッキ工事の時に落下部分の斜材ロッドを補修したとの話があるが、県から説明はあったか。
- A 全体を施工した後に全体をジャッキダウンする方法でなく、分割して施工すると必ず他工区に影響が出るため、チェックがだぶるとの話があった。
- Q 補強した原因については説明があったか。
- A 次回聞いてみないとわからないと考えている。
- Q 当初の構造計算が間違っていたので補修したのでは。
- A 聞いてみないとわからないが、当初予想していないことがおこった可能性もある。
- Q 落下した部分の力のかかり具合は複雑なのか。
- A 多少複雑である。個人的な想像だが、一部の部材が壊れ始めると、次々と部材の破壊が進行する構造になっていたかもしれない。
- Q 構造解析の内容は。
- A まず斜材が最初に切れて、ほかに波及したのか。それとも鉛直材が原因か、あるいは床版にひびがあって壊れたのか、いろいろな可能性を考えたい。
- Q 解析は委員が行うのか。
- A 専門家にわれわれが指示して進めようと思う。設計で行った以上の解析が必要である。簡単には結果が出ない。
- Q 材料試験の結果の提出はあったか。
- A 今日はない。撤去後になる。
- Q 最初に壊れ始めた部分は斜材ロッドかP C鋼線の部分かどちらかと考えるが。
- A 多分どちらかであろう。
- Q 次回までに事務局に求めるものは。
- A 解析の専門家を決めることと、関係業者への委員からの質問の取りまとめ。
- Q 悪意のある手抜き工事はあったか。
- A それは考えられない。
- Q 保存すべきものの指示は。
- A 基本的に全部残す。

(以上)